



発行責任者 幹事長 田村良人
〒171-0051

東京都豊島区长崎2-34-4

株 東洋興産内

Tel.03(3554)7314/Fax(3554)7313

kantou-seiun@ty-kosan.co.jp

関東せいりん

～兄を偲んで～

名誉会長 中村 隆俊 (市中2回生)



昨年、私は体調を崩し、一時身を案じましたが10月で無事傘寿を迎えることができました。これで天国行きの切符をもう少し先延ばしにできたことと安堵していた矢先に、兄の故・哲夫(板橋グループ会長)が、昨年11月13日に帰らぬ人となりました。

兄との思い出で、今でも時々思い出すが、中学時代に函館の叔母・青山家に下宿していたときのことです。当時、特に遊ぶものがなかった時代でしたので、同級生だった故・中島喜一郎君と銭湯に行って三時間も遊んで帰ってきたことがありました。帰宅した途端、兄が「どこ行ってた、勉強しろ!」と家中響きわたる大声で怒鳴りつけられたことが今でも鮮明に記憶に残っております。何故あのときのシーンを何度も思い出すのか分かりませんが、おそらく、当時は大人しくて気弱な性格の私に対して兄は穏やかで決して叱ることがなかったからかもしれません。親元離れて暮らすことの多かった私にとっては兄は第二の父であったのです。

旧制中学卒業後、兄の誘いで東京医科大学に進学を希望したのですが、当時、東京下町の上空襲が起これ一晩で10万人もの死者が出て混乱が続いたため上京を断念、大学時代は北海道で過ごすこととなりました。その後、東京にインターンとして上京、兄のいる東京医科大学内科に入局したのです。途中、山梨県の済生会大月病院に派遣され、当時、名古屋大学から来られていた外科医師が辞められるのを機に外科専門医だった兄を大月に呼び二人で大月の地域医療の為に力を注ぎました。そこで兄から学んだことは、患者様の気持と意思を尊重する、いかなる事態にあっても地域への責任を果たすために努力を怠らないことでした。ここでの経験が、我々にとって後のCMS(板橋・戸田・上尾)組織を構築する自信となったのです。

旧制中学卒業後、兄の誘いで東京医科大学に進学を希望したのですが、当時、東京下町の上空襲が起これ一晩で10万人もの死者が出て混乱が続いたため上京を断念、大学時代は北海道で過ごすこととなりました。その後、東京にインターンとして上京、兄のいる東京医科大学内科に入局したのです。途中、山梨県の済生会大月病院に派遣され、当時、名古屋大学から来られていた外科医師が辞められるのを機に外科専門医だった兄を大月に呼び二人で大月の地域医療の為に力を注ぎました。そこで兄から学んだことは、患者様の気持と意思を尊重する、いかなる事態にあっても地域への責任を果たすために努力を怠らないことでした。ここでの経験が、我々にとって後のCMS(板橋・戸田・上尾)組織を構築する自信となったのです。

当時の病院経営は兄を真似ていけばできた経営でした。しかし追いつけ追いこせの信念で、連携しながらも共に競合しあっていたのが、今日のグループ病院にまで発展していったのだと思います。経営面では互いに競争相手でありましたが、父親のいい癖であった「兄弟三人、瀬棚の海岸に浮かぶ三本杉のように仲良くしなさい、三つの岩が集まれば、どんな波にも打ち勝てる」という言葉を常に心に刻み、どこに行くにも三人一緒でした。ゴルフも一緒、旅行も一緒。ですから周りからは「仲の良い中村3兄弟」といわれてきました。

中村三兄弟と言われた兄が去ってしまい遺された私と弟は猛然と悲しみに暮れましたが、これからは兄弟二人で一層健康に留意しこれまで培ってきた病院経営の熱い思いをこれから引き継いでいく若い職員達に伝えていくのが私の使命であると思っております。

～青雲の志～

会長 新山 春一 (東高11回生)



風薫る候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。日頃は関東青雲同窓会の為にご支援、ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

さて函館東高等学校の前身である函館市立中学校は、昭和15年4月に船見町の仮校舎で第1回の入学式を行い、昭和18年4月に函館市民総意と梅津福次郎氏の御支援によりまして約3万坪も有する広大な敷地に建てられた新校舎に移転し、以来平成19年3月に閉校するまで67年間の歴史をつづることになりました。少子高齢化の時代にやむ

をえないことと認識しつつ大変残念です。併合の議論の中で当時青雲同窓会の平沼会長、森校長(当時函館東高
校長)は、「青雲」の名前だけは残そうと努力されたことには大変感謝をしております。

平成 19 年度の函館本部青雲同窓会、札幌支部同窓会、関西青雲同窓会と出席いたしましたが、各地区とも
参加者が例年になく増加し、「青雲魂」を強く感じさせられました。

関東青雲同窓会は、昭和 60 年 5 月 15 日に豊島区の茗溪(めいけい)会館に 313 名出席のもと設立総会が開催
されてから来期で 25 年目になります。その間、事務局を移転し、会費の徴収、名簿の整理等を I T の導入に
より各幹事期が行い、年 3 回の行事をこなし会場探し等を通じて絆を深めております。また在京他校との連携
等を通じて行事に積極的に参加しております。例えばゴルフ対抗の巴会、道南会、あすの道南を拓く会等です。
これは関係各位の大変な努力のたまものと感謝にたえません。

同窓会の絆は、青春の夢を思い起こし、それぞれの立場の中で、決まり事にとらわれる事なく、気軽に集ま
れる会に、今後もめざして行きたいと考えております。最後になりますが、多くの人に参加できる魅力ある会
にしたいと考えております。今後も皆様に支えられながら頑張っていきます。

年次活動報告

今期も年 3 度の同窓会を盛大に開催することができました。幹事期も 25 回生(昭和)50 年卒から 26 回生(昭
和 51 年卒)に無事引き継がれました。幹事期の皆様に感謝いたします。

1. 総会・懇親会

平成 19 年 5 月 26 日午後 5 時半～午後 8 時半、中野サンプラザ・クレセントにて、第 23 回関東青雲同窓会
総会・懇親会を開催、来賓 15 人を含む 120 人が出席。

総会において、会則の変更案、役員の変更案が承認され、北海道函館東高等学校の閉校に伴い「北海道函館
東高等学校関東地区青雲同窓会」から「関東青雲同窓会」へ会名を変更しました。

来賓の平沼冠三同窓会会長は「今後の同窓会はどうなるかとよく聞かれることですが、青雲同窓会は絶対に
なくなりません。「同窓会はそれぞれ学校ごとにやっぴいこう」と基本的な意志統一はできています。(両同窓
会)ともに一緒に協力できることはしていきたいと思ひます。」と述べています。

森武市立函館高等学校校長は来賓挨拶で「(併合後)生徒達は元気にやっております。学校の総合力は増しま
した。道南において、代表する学校を造りたいと思ひます」と新設高の近況を報告いただきました。

今回、佐野秀一郎先生(東高 32 回生、元東高教諭、現戸井高教諭)のご協力で、第 52 回生(平成 14 年卒)から
第 56 回生(平成 18 年卒)19 人が参加いただきました。(下記写真)

最後に参加者全員がひとつになって、東高の校歌・応援歌を高らかに合唱したのです。



2. 納涼会

平成19年8月25日午後5時半、関東青雲同窓会納涼会が品川区平塚のレストラン「さいくる」にて開催。函館市東京事務所 會田雅樹所長や前同窓会事務局の広瀬晶子さん、現同窓会事務局の田村房江さんの招待者を含め総勢53人が参加しました。

今年幹事期東高26回生(昭和51年卒)の初仕事。幹事期代表・奥山智美さんをはじめ同期7名が参加しました。納涼会の冊子も立派なものを作成しています。

新山会長が挨拶し、去る8月14日に開催された北海道函館東高等学校「青雲同窓会総会」(219人出席)について、6年間にわたって会長を務められていた平沼冠三氏(東高18回生)が北高との併合問題も決着がつき退任し、石井眞一氏(東高20回生昭和45年卒)が会長になった、との報告がありました。

3. 新年会



平成20年1月26日、グランドプリンスホテル高輪・古稀殿にて恒例の新年会を開催、最近の新年会では、最多の77名の参加でした。本年の幹事期東高26回生9人が集まり、新年会を運営していただきました。

次年度幹事期東高27回生4人(=左写真=)が、初参加してくれました。年々、老人クラブ化しつつある関東青雲同窓会の中で、どう新たな若いメンバーを増やしていくことが課題となっています。最年少は平成2年卒

東高40回生で、昨年の関東青雲同窓会納涼会の初参加に引続き、今回も出席。

新山会長は「昨年、函館東高は廃校になり、今後、同窓会の会員は増えることはありません。今年の市立函館高校卒業生の同窓会を独立して新設するか、合同で同窓会をやるか、今後、本部の状況をみていきたいと思ひます」と新年の挨拶で語っていました。

4. 函館巴会ゴルフコンペ (投稿: 福田道義 東高28回生)

毎年、函館巴会というゴルフコンペを行っています。「函館西高・つつじヶ丘同窓会」と「函館中部高・白楊ヶ丘同窓会」と「函館東高・関東青雲同窓会」3校の同窓会東京支部における親睦交流にて同窓会の活性化をはかり、函館を故郷とする共通の絆をより深める事で函館の発展に寄与するための大会です。

第11回は東高が幹事校となり、平成19年4月14日、杉の郷カントリークラブ(栃木県日光市)にて開催しました。団体対抗戦(13名参加し上位6名のポイント制)により競いました。

結果は、優勝が43ポイントの西高校、東高校は第2位の65ポイント、3位は中部高校71ポイントとなりました。途中から雨が降り、雷が鳴り、雨が雹になり避難小屋にて待機をするという大荒れの天気でしたが、西高校はベストテンに6名も入る圧倒的な強さでした。我が東高校は万年3位から優勝を目指すべく18名の選手を送り込みましたが2位という結果に終わり、またも団体初優勝はならない大会でした。

今年は、西高校が幹事となり4月18日(金)に開催されます。目指すは団体優勝です。

青雲同窓会本部・支部活動報告

☆ 継続こそ今こそ ☆

青雲同窓会会長 石井眞一(東高20回生)



昨年(平成19年)8月の総会で平沼前会長よりバトンタッチを受け、何とか無事に半年が過ぎようとしております。この間会員の皆様には各方面にわたり、ご指導ご協力を受け賜り心から感謝申し上げます。同窓会のお手伝いをするようになって10年余りが過ぎようとしておりますが、昨年ほど母校や会にとって変化があった年はなかったのではないかと考えております。

すでにご承知の通り、平成19年4月からは函館北高校との統合により校名が「市立函館高等学校」と変わり、校歌も校旗も新しいものとなり、校舎の方も新築同様に整備されて、二学期より新校舎での授業が始まりました。

行灯行列においても、一部廃止の意見もございましたが、在校生や先生方の熱い思いがあり名前こそ「青雲祭」から「柳星祭」と変わりましたが、8月下旬(今年からは7月に戻ります)に父兄の方々も参加され盛大に開催されました。

同窓会においては、3月の卒業生をもって最後の会員となり、今後新入会員は残念ながら入会して参りませんし、毎年の新入会員の会費収入も皆無となります。

また同窓会に物心両面にわたってご尽力をいただいております、柳沢元会長が年末に、一月には篠原事務長がお亡くなりになりました、心からご冥福をお祈りいたします。

このように、もろもろのことがありました昨年度でしたが、三月の卒業生が最後の会員といったことは、「市中」「函館市立高校」「東高校」と続く永い会の歴史のなかでも、なかったことではないかなと考えております。

ただ、今の在校生が卒業して、新しい同窓会を創っていくのか、はたまた今までも校名は変わってきましたが、青雲同窓会として一つの流れの中で継承してきたように、新しい会員として受け入れるのか、今後の成り行きを見守っていきたくて思っております。

どちらにしても、柳町の青雲台で、青雲の志のもと、学び、遊び、一番輝き、思い出多き時代を過ごしていく在校生諸君にとって、会が存在すること、札幌、関東、関西と全国に諸先輩がおり、後輩ができるということは、彼らにとって力強いことではないかと、独り言ではありますが、考えております。私も札幌、関東、それぞれの支部に何回か出席させていただきましたが、これが同じ青雲台で時代こそ違いますが、学び、遊び、泣き、笑い、感動した人たち、そして、昔を思い、未来を語らい、心がホッとすると、場(会)であったような気がします。確かに若い人たちの出席が少なくなってきたことは、どの会にも言えることです。しかし、年月を経ていつか時間に余裕ができ、出席しようと思ったとき、その場(会)がないということは・・・、どうでしょうか・・・? 「継続は力」という言葉がございます、同窓会も継続していかなければ、故郷も、友人も心も、繋がっていかないと・・・そんな気がするのですが・・・



☆ 青雲同窓会札幌支部第 26 回「アカシアのつどい」に行燈行列登場 ☆



平成 19 年 9 月 22 日 (土)、第 26 回青雲同窓会札幌支部総会[アカシアのつどい]が札幌市中央区南 7 東 1「札幌ロイヤルホテル」において 18 時から総勢 158 名が参加して行なわれました。今年は昭和 51 年卒の幹事で開催され、行灯行列等、趣向を凝らした企画で大変盛況に終わりました。

来年、昭和 52 年卒が幹事になります。出来れば年度内に第 2 回札幌地区同期会を開催したいと思っていますので参加を宜しくお願いします。

「私も卒業して 30 年、やはり行灯行列には特別な思いがあり、今でも当時の行灯製作や行列の模様をはっきりと覚えています。今回の青雲同窓会札幌支部の行灯は、昭和 51 年卒の先輩方々の当時の思いが詰まったすばらしい力作でした。東高校も市立函館高校

となりましたが、是非、この行灯行列を継続して欲しいものと OB として願っているところです」と函館東高校第 27 回卒札幌地区情報交流ページ管理人西島洋介さんから追加メッセージを頂きました。(尚、当会からは新山会長と笠巻副会長が出席)

☆ 関西青雲同窓会 ☆

青雲同窓会会長 小林正孝 (東高 12 回生)

関西青雲同窓会は現在、市中 1 期生の大竹氏、東高 1 期生で校歌を作詞された厚谷氏など会員役 200 名で運営しています。今回で第 16 回の開催となりますが、同窓会発足の頃の会員は健康等々で出席出来なくなった方も沢山おられますが、近年は子育ても終え、又小さな子供を連れて新しく参加される方もおられます。

故郷を遠く離れていることも有り、同窓会と同時に故郷会的な雰囲気を楽しみたいひとときです。

関西青雲同窓会は毎年 6 月の第 2 土曜日に薬業構成年金会館(大阪市中央区谷間 6 丁目)で開催しています。参加者は例年 40 名前後です。

今年も 6 月 14 日(土)、薬業厚生年金会館 402 号室で 12:30~16:30 まで第 16 回関西青雲同窓会の総会を開催します。関西在住の東高同窓生はぜひご連絡をお待ちしております。



(平成 19 年 6 月 14 日撮影)

関東地区同期会活動報告

10 回生(昭和 35 年卒)

去る3月8日、恒例の会合を開催しました。

今年は、函館の本部から会長以下5名の出席があり、総勢34名の盛会でした。

現在東京支部には84名が登録されているので、約3分の1の出席となります。

途中途切れることもありましたが、最近では5年間連続開催しています。

各人の近況報告があり、趣味に健康づくりに励んでおられるかと思うと、一方ではまだ社会の第一線で活躍している方もいらっしゃいます。

二次会は、これまた恒例のカラオケボックスに場所を変え、夜更けるまで盛り上がった一日でした。

2010年には東高校卒業50周年と同時に、我々は古希を迎えることとなります。

本部からは、この記念事業の骨子説明があり、今年から準備に入ることで、満場一致の賛同が得られました。

或る医者の方の分析によると、人はその人に友人が多いほど長寿であるといわれています。

この会も、メンバーの長寿であることを願い、いつまでも続けたいものです。



11 回生(昭和 36 年卒)

26回目の3.6会(11回生)東京支部会は65才の年令を考慮して駅から1分の九段会館にて、平成19年12月1日開催25名出席。 函館、仙台、名古屋からも出席。

多忙の中、東京支部会にも毎年函館から出席していた柳沢勝君の急死は、ただ驚くばかりでした。

又横岩君も7月の知床旅行では元気だったのに、9月に亡くなり、健康管理を再認識する1年でした。

幹事役の新山は急性心筋梗塞のため入院中により出席できませんでしたが、皆がもちよった品物で抽選会を行い楽しい時間を過ごしたとのこと。今年の予定は名古屋旅行及び千葉房総半島の日帰り旅行を計画している。



16 回生(昭和 41 年卒)

16 期生のほとんどが今年還暦を迎えることとなり、函館の青雲同窓会 16 期生が中心になり去る平成 19 年 8 月 25 日、函館ホテル法華クラブにおいて、「北海道函館高等学校第 16 期生還暦記念同期会」(下記写真)が開催されました。恩師を含め 120 名の参加があり、大盛会であったことを報告します。東京からは、厚谷君、畝田君、斉藤(和)君、笠巻夫人らが出席しました。当然のことではありますが、クラス毎二次会を更に盛大に実施し、旧交を温めました。

さて、これらの報告会を東京池袋の「大龍門」において、9 月 14 日に 16 期生 10 名で実施しました。また、函館の幹事代表及川君から当時の様子のよくわかる DVD が送られてきました。思い出がぎっしり詰まったすばらしいものです。これを又皆で鑑賞する会を設定しなければなりません。函館の幹事の皆様本当にご苦労さまでした。ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

特に幹事代表の及川君、司会の鎌田君、さらにクラス幹事の皆様にあらためて感謝いたします。



23 回生(昭和 48 年卒)

平成 19 年 10 月 20 日、第 3 回目の同期会を開催して早 1 ヶ月、皆さんお変わりありませんか。一次会の集合写真等ができましたので同封します。今回は 3 年連続開催にも関わらず 35 名(二次会のみ参加 2 名)の出席がありました。初めての参加は 6 名、3 回連続出席者も多くとても嬉しく思っています。関東地区在住の同期生は 85 名、今回で 53 名が出席経験者となりました。

同期の卒業生は、学年全体で 420 名いました。お互いに話をしたことがない、という人がいても不思議ないですよ。『隣に座った人、顔はなんとなく見たことあるけど、今回初めて話しをしました。話始めると、以外に自然と会話できるのが驚きでした。』そんな声を聞きました。同じ東高生だから「ちょっと見かけた人が、旧友に変わった」のでしょうか。そして今年は「出席者が年々仲良くなっている」と感じました、私だけでしょうか。来年また「新しい旧友」を迎えることができれば、と思っています。

会の愛称については、もう少し時間を掛けて決めていきたいと思っています。皆さんも再度考えて頂ければと思います。



第 25 回生(昭和 50 年卒)



先日、平成 20 年 1 月 26 日、関東地区新年会の日とその流れのまま集まればと、関東地区の同期会を開いたので報告がてらメールを送ります。

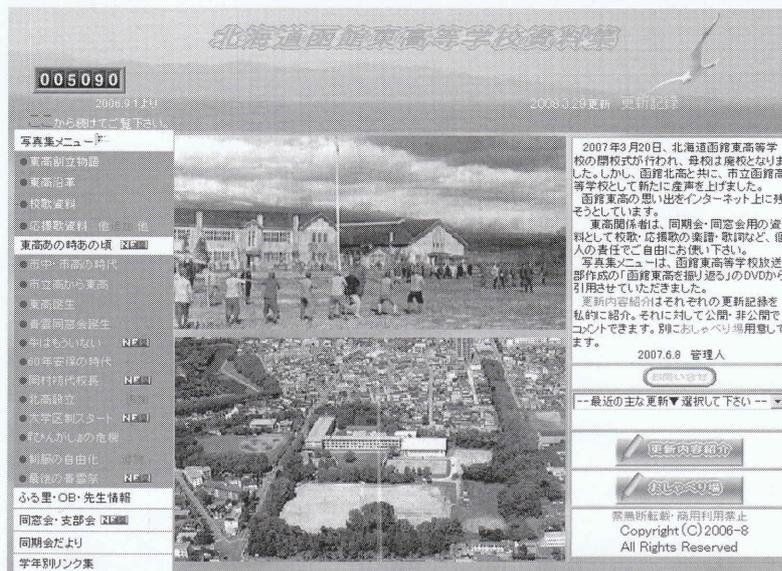
新年会の参加は 6 名でした。同期会のほうは、場所は、一次会は品川の芋蔵庭園、二次会は同じ品川で稲田屋。どちらも似たような居酒屋だったのですが、総勢 12 名集まってくれました。昨年は同窓会の当番年で、それから離れてからの初めての集まりだったので、どのくらい集まってくれるか心配だったのですが、ちょうど良い人数で和気あいあいとひと時をすごしました。

— 原稿募集中 —

来期は関東青雲同窓会発足 25 周年に当たります。皆様の御意見等を参考にしながら、記念号の作成を予定しております。同窓会の思い出や同期会報告等を募集中。関東青雲事務局にファックス、メール、又は郵便でお送り下さい。

- ファックス : 03 (3554) 7313 ●メールアドレス kantou-seiun@ty-kosan.co.jp
- 住所 : 〒171-0051 東京都豊島区长崎 2-35-4 (株)東洋興産内 関東青雲同窓会

— ホームページ、函館東高資料集紹介 —
(アドレス : <http://www.green.dti.ne.jp/seiun-dousoukai2/>)



「函館東高の思い出をインターネット上に残そうとしています」というのが、北海道函館東高等学校資料集だ。

関東青雲同窓会のホームページは、関東地区に特化すべきとの意見もあり、当ホームページの誕生となった。資料集は、当役員会でも承認され、関東青雲同窓会とのリンクも多数あり、いわば関東青雲同窓会のホームページとは姉妹関係であろう。

写真集として校舎、学校行事、青雲祭、部活動、集合写真ごとに写真を載せた。67 年の歴史を写真付沿革年表とともに紹介。50 年誌、青雲時報縮刷版などから 16 編の東高あの時あの頃を綴っている。校歌、

援歌の歴史や音等の資料を集めた。「ふる里・OB・先生情報」には、夙先生こと梅谷利治先生他 7 編の情報を記している。他に「同窓会・支部会」「同期会だより」「学年別リンク集」がある。

皆さんの函館東高の思い出や資料・写真を募集中。関東青雲同窓会ホームページともに、ご支援・ご協力をお願いしたい。

函館東高資料集管理人

青雲函館本部を“突き上げ”よう

朝倉敏夫(東高10回生)



関東青雲同窓会の皆さんは、それぞれに同期会をも楽しんでいる模様である。私たち東高10期生も、今春、毎年恒例の同期会東京支部会合を開催したが、集まりには、函館からも、かつて青雲同窓会函館本部の会長を務め、いまでも同期会会長である山英昭君らも参加してくれた。山君は函館市医師会長としての多忙な活動の合間を縫っての出席だった。山君と私とは、数えて55年になる無二の親友だ。そうした気安さから、山君が青雲函館本部会長だった当時、よく山君をヒヤカしていた話題があった。こんな具合だ――。

「函館本部では、毎年、運営費が新卒業生の入会費の形で自動的に入ってきており、事務局機能も東高校事務室が代行してくれている。函館本部役員などというのは、なんの苦労もないではないか。その点、関東青雲では、会員個人個人の自発的会費を集めて運営費・諸経費をまかない、事務局機能を維持するため、役員たちはいろいろと心労を重ねている……」

さて、聞くところによると、東高、北高の統廃合による市立函館高の発足に伴い、今年の3月卒業生から、青雲函館本部への「新入会員」としての会費自動“天引き”収入は無くなった模様である。当面は、これまでの自動収入の蓄積を取り崩す形で活動を継続できるのかもしれないが、このままでは、青雲函館本部は、そう遠くない将来、立ち枯れるということになりかねない。

会費収入や事務局機能だけのことではない。そもそも新入会員のない組織などというものには、老人クラブ化の一途という運命しかない。未来はない。

これは、北高同窓会にとっても同様の悩みなのではないか。双方が困っているのであれば、ここは、もう、名称の問題を含め、なんとか双方が譲り合って、同窓会統合への道を真剣に探るしかないだろう。

いろいろと難しい事情もあるだろうということは、想像はつく。しかし、どの世界のどのような問題でも、決断を回避するための「難しい理由」など、いくらでも挙げられるものだ。要は、同窓会函館本部の役員たちに、「当事者」として汗をかく気があるかどうかだろう。これまでのように、タダの名誉職として、恒例の行事に恒例の挨拶をするだけで、なんの苦労もなく、高校事務局に任せていれば務まっていた時代の延長感覚では困る。

ちなみに、山英昭君は、青雲本部会長当時、市役所が旧教員住宅跡地をバス駐車場にしようとしたのを、強い指導力によって同窓会をまとめ、阻止した。その数年前、青雲台キャンパスは、自動車道路によって“二分割”された。これは、全国的常識に照らせば、とてもあり得ない、スキャンダルともいえるべき恥知らずな土建行政の結果である。当時の同窓会長たちに山君のような見識と腹構えがあったら、こんな無茶苦茶な暴挙がまかり通ることはなかっただろうと、青雲台を訪ねるたびに、実に残念な思いをしている。



青雲本部が立ち枯れては、関東青雲も根無し草みたいなものになる。関東青雲の皆さんにも、機会あるごとに、函館の役員たちを叱咤激励、“突き上げて”ほしいものだ。

(编者注：写真は校地を2分する松見通。グラウンドは東高の野球場で、奥に青雲記念館がある)

青雲台は、今・・・



平成19年3月20日、我ら母校・北海道函館東高等学校は67年の幕を閉じ、廃校になりました。

函館北高校と併合し、青雲台の地に新たな学校、市立函館高等学校が誕生しました。左の図案は東高30回生佐々木善憲さんがデザインした市立函館高の新校章です。すでに、平成20年3月1日、市立函館高校の第1回卒業式が行われ、第1期生398名を送り出しています。

「青雲台は、今」と題し、新設校の一端を校門とあんどん行列で紹介しました。

1. 今も残る、自由と責任の象徴



左写真は、市立函館高等学校の校門である。名前こそ、市立函館学校と真新しい看板を掲げているが、今も柱は設立当時のままに残されている。

「この校門は永久に閉じない門であり、東高の自由の象徴です。そしてまた一方で、自由に伴って責任というものを示す、単なる2本の柱ではないと思います。

あの門を大事にして、これからもあの形を保存していただきたい。あの門は東高のシンボルそのものです」と元北海道新聞社編集局

長・作田和幸(東高1回生)さんは、平成2年10月26日50周年記念講演で語っています。

今もその伝統は変わっていません。

昭和15年、ドイツ軍がポーランド侵略開始した翌年、東高の前身・函館市立中学校が誕生。翌年、昭和16年、梅津福次郎翁、斉藤與一郎函館市長、田辺顕夫ら多くの市民の支援によって、新校舎の着工にこぎつけ、本校は誕生しました。

「本校は子弟に、より高度な教育の機会を与え、将来の函館市を背負って立つ人材を育成しようという函館市民の悲願を受けて建設されたものでありまして、その実現には梅津福次郎氏の篤志をはじめ、多くの市民の方々の情熱と善意が寄せられており、まさしく「市民の学校」と呼ぶにふさわしい出発となったのであります」と東高OBで故函館市長・木戸浦隆一氏は語ったように、これからも「市民の学校」として、新しい歴史を綴っていくことであろう。



(編集注：下の写真は最初の校門。現在、中央の道は松見通となっている)

2. 名物あんどん行燈行列、存続



「名物のあんどん行列は東高の顔だ。そこには若者たちの情熱と創意が輝いている。作品の順位を競うのが目的ではけしてない。それはよりよく燃えるための手段であり、熱中した時間と行動は、やがて彼等の人生に素晴らしい思い出を与えるだろう」と語るのは、母校で29年間教鞭をとった創作凧師・梅谷利治さんだ。

あんどん行列は1956年9月の文化祭「青雲祭」の前夜祭として始まる。生徒が最も燃焼し、市民も楽しむ東高のメインイベントだった。(左写真は

● Hakodate 提供)市立函館高校になっても、「柳星祭」にその伝統は引き継がれている。

平成19年8月31日、初の学園祭が行われ、平成19年9月1日付「函館新聞」に「市立函館高校初の学校祭、あんどん・仮想行例で開催」と題して次のように紹介された。

『市立函館高校(森武校長、生徒1114人)誕生後初の学校祭「第1回柳星(りゅうせい)祭」は31日、あんどん仮装行列で開催した。旧函館東高校のあんどん行列と、旧函館北高校の仮装行列の伝統行事を合わせた。生徒や教員、保護者が一体となって祭りの開幕を高らかに宣言した。

コースはこれまでと同じで、五稜郭タワーや千代台公園、本町付近などをぐるりと回る。延長約4・9キロで、途中で休憩を取りながら約2時間半かけて歩いた。

最初の学校祭とあり、生徒はこの日に向けて懸命にあんどんを作ってきた。千代台公園で点灯して夜の繁華街に繰り出すと、沿道に集まった市民や保護者、友人らが拍手で出迎え、生徒は歌や踊りで応えていた。本町交差点では、信号が青になるのを待って猛ダッシュ。重量のあるあんどんを担いだ男子も「走れー！」の合図で一気にまちを駆け抜けた。

学校祭は1、2日に一般に公開する』

(中央写真は、東高OBのハンドルネーム冷夏さん提供)



「東高校という一つの学校は消えてしまいましたがまだまだ青雲魂とか、そういったものは消えてないと思いました。やはり同窓生には在校生よりも強い思い入れがあるように感じました。ちなみに青雲記念館は東高校からの寄贈ということで名前も残っていますよ。左写真は今年度の青雲祭改め柳星祭のクラスの行灯です」と市立函館高第1期卒業生・木村真奈美さんがメッセージを寄せてくれた。

今も青雲魂は我々の心にも、現役生徒にも生きているようだ。

第24回関東青雲同窓 総会・懇親会案内



来る5月31日(土)午後5時より千代田区九段下駅近くの九段会館にて、第24回関東青雲同窓会 総会・懇親会を行います。

九段会館は、昭和9年に竣工された近代の歴史的建物(=左写真=)。かつて、軍人会館とも言われ、予備役、後備役の軍人の収容・訓練の場として建設されました。昭和11年の2.26事件の時には、戒厳司令部が置かれたといひます。連合軍の宿舎としても使用されました。

今期幹事期は26回生(昭和51年卒)です。年度幹事長の奥山智美さんを始め、26回生が総会・同窓会に向けて着々と準備を進めています。

今回は、幹事期同期生のシャンソン歌手・八木こうこさん(右写真)がアトラクションに参加してくれます。八木さんは平成11年第15回関東地区青雲同窓会の懇親会にもその歌声を聞かせてくれました。お楽しみください。



今年も学生に対して5,000円の学割料金を設定しました。また、夫婦割引お二人で16,000円を定めています。一般は9,000円。

次の幹事期は27回生が出席して、例年通り引継ぎ式を行います。

皆様お誘いの上、ふるってご参加ください。

尚、詳細は、関東青雲同窓会ホームページ(<http://seiun-dousokai.web.infoseek.co.jp/>)をご参照下さい。

— 編集後記 —

関東青雲同窓会の皆様に、当会の年次活動報告や、関東地区同期会、本部、支部の活動状況をお伝えるよう写真を重視して作成しました。



また、役員会でも同期会でも「あんどん行列はどうなったの」と聞かれますので、「青雲台は今」と銘打って、校門とあんどん行列を紹介しました。昨年札幌支部で、東高OBがそのあんどんそのものをアトラクションに作っています。あんどん行列は東高生にとって強い思い入れがあるのではないのでしょうか。最後の青雲祭でも「準備段階から気合が入った」「東高と北高のPTAも行燈行列に参加し、生徒に負けないう程の気合にみなぎっていた」(東高・青雲時報第167号)そうです。

記事の一部は函館東高資料集(本誌8頁参照)から引用しています。改めて会報に印刷して見ると、また別な印象を受けるのではないのでしょうか。尚、当初、カラー印刷を予定しておりましたが、諸般の都合でモノクロ印刷にしました。

会報を見て、函館東高OBの皆様が我が母校を懐かしんでいただき、同窓会・同期会に参加するきっかけになれば、幸いです。

副幹事長 高橋 喜宣(23回生)